

「マッチングによる政策の推進に向けた検討」概要版

1. 策定の主旨（冊子 P 2）

- ・地域の社会環境が変化するなかで、これまで区と区民・事業者がともに積み上げた政策手法や社会資源については、多様化する区民ニーズへよりの確に対応し、課題解決できるように、常に工夫と見直しが必要です。
- ・とりわけ、今後、確実に進行する高齢化や、都市化に伴う家族形態の多様化、災害に対する備えへの意識、環境問題等、多種多様な社会状況が取り巻くなか、限られた財源のなかでも、より効率的で効果的な政策手法や資源再配分の工夫が急務です。
- ・これまでも区では、基本計画ほか各計画のもとで、事業を推進するにあたり、関係する組織間での連携はもとより、区民参加や協働に取り組んできました。
- ・今後、こうした取組みの大切さを改めて認識し、連携協力を高めるとともに、さまざまな分野を超えた庁内横断的な政策課題では、最善の施策を組み立てていけるよう、職員一人ひとりの意識の向上、事業手法や組織のあり方の改革に取り組んでいくことが重要です。

2. 世田谷区の現状等（冊子 P 8）

平成 26 年 5 月に、庁内各部が取り組む政策や事業を対象に実施した「連携事業等に関する調査」によると、さまざまな連携や協力が行われている現状があります。

【調査からみた主な取組み事例から】

< 総合支所 >

- ・地域包括ケアと地域福祉資源への取組み 他

< 企画総務領域 >

- ・防災塾の実施 他

< 区民生活領域 >

- ・提案型協働事業 他

< 保健福祉領域 >

- ・福祉人材の確保、育成 他

< 都市整備領域 >

- ・空き家等活用検討 他

< 教育領域 >

- ・世田谷教育推進会議 他

当面のスケジュール

平成 26 年 8 月 26 日～28 日 区長と各部長との意見交換会

9 月 2 日 企画総務常任委員会報告

3. マッチングの基本的方向性（冊子 P 14）

(1) マッチングの意義

基本計画に掲げる「目的を共有し、縦割りを超え、さまざまな分野や主体を横つなぎに組み合わせることで、課題解決の力を高めるよう、相互に協力して政策を進めること」を踏まえて、自治権拡充や住民自治の進展を見据え、限られた財源で事業を融合させることで、基本計画における重点政策ほかを、より効果的効率的に進めます。

(2) マッチングによる横断的政策を進めるために必要となる、4 つの要素を以下の項目とし推進します。

目的の共有

政策を推進するための複数の取組みにおいて、これまでの制度や仕組みにこだわらず、問題を深く広く捉え、課題の解決に向け、相互に求めるべき目的を共有します。

各々の組織にこだわらない広い視点

目的実現のためには、限られた組織や事業の範囲だけで課題解決にあたらず、組織横断的に、総合的な広い視点で取組みを行う必要があります。

横つなぎ・組み合わせ

具体的な取組みにおいて、さまざまな行政分野の施策や、多様な区民・事業者などの参加・協働の活動を横つなぎ・組み合わせ、融合させることにより、長期的、多角的な視野を持ち、深く・広く考え、その力を最大限発揮することで政策を実現します。

相互協力

区民・事業者等・区が相互に協力して、責任と役割を分かち合い、新しい行政サービスの創造や政策の実現に取り組めます。

4. 今後の展開（冊子 P 18）

モデルの選定

マッチング対象となる政策をモデルとして示し、マッチング推進会議と所管部が協力して取り組みます。検討(試行)の結果は、「マッチングレポート」に盛り込みます。連携事業等調査結果を踏まえ、マッチング推進会議において選定作業を行い、平成 26 年度中の実施に向けて検討します。

マッチングの進捗管理（PDCA による進行）

- ・マッチング事業については、その取組みが目的に照らしてどのくらいの進捗にあるか評価します。
- ・マッチング事業の推進状況を外部委員会へ報告し、外部評価を受け、改善点などさらなる向上の仕組みづくりを行います。

マッチングによる政策の推進に向けた検討

— さまざまな分野・主体をつなぎ、融合させる —

< 世田谷版マッチング >

平成 26 年 9 月

政 策 経 営 部

目 次

1	策定の主旨	2
2	世田谷区の現状等	8
3	マッチングの基本的方向性	14
4	今後の展開	18

1 策定の主旨

1 背景と主旨

- ・地域の社会環境が変化するなかで、これまで区と区民・事業者がともに積み上げた政策手法や社会資源については、多様化する区民ニーズへよりの確に対応し、課題解決できるように、常に工夫と見直しが必要です。
- ・とりわけ、今後、確実に進行する高齢化や、都市化に伴う家族形態の多様化、災害に対する備えへの意識、環境問題等、多種多様な社会状況が取り巻くなか、限られた財源のなかでも、より効率的で効果的な政策手法や資源再配分の工夫が急務です。
- ・これまでも区では、基本計画ほか各計画のもとで、事業を推進するにあたり、関係する組織間での連携はもとより、区民参加や協働に取り組んできました（ ）。
- ・今後、こうした取組みの大切さを改めて認識し、連携協力を高めるとともに、さまざまな分野を超えた区内横断的な政策課題では、最善の施策を組み立てていけるよう、職員一人ひとりの意識の向上、事業手法や組織のあり方の改革に取り組んでいくことが重要です。

基本計画（平成 7 年度～16 年度）

主要課題に「ネットワークづくり」を掲げ、保健・医療・福祉・教育等の連携やさまざまな活動や団体、事業者の参加・交流・連携を通じた自治の発展を図ることを目標に施策を進めてきました。

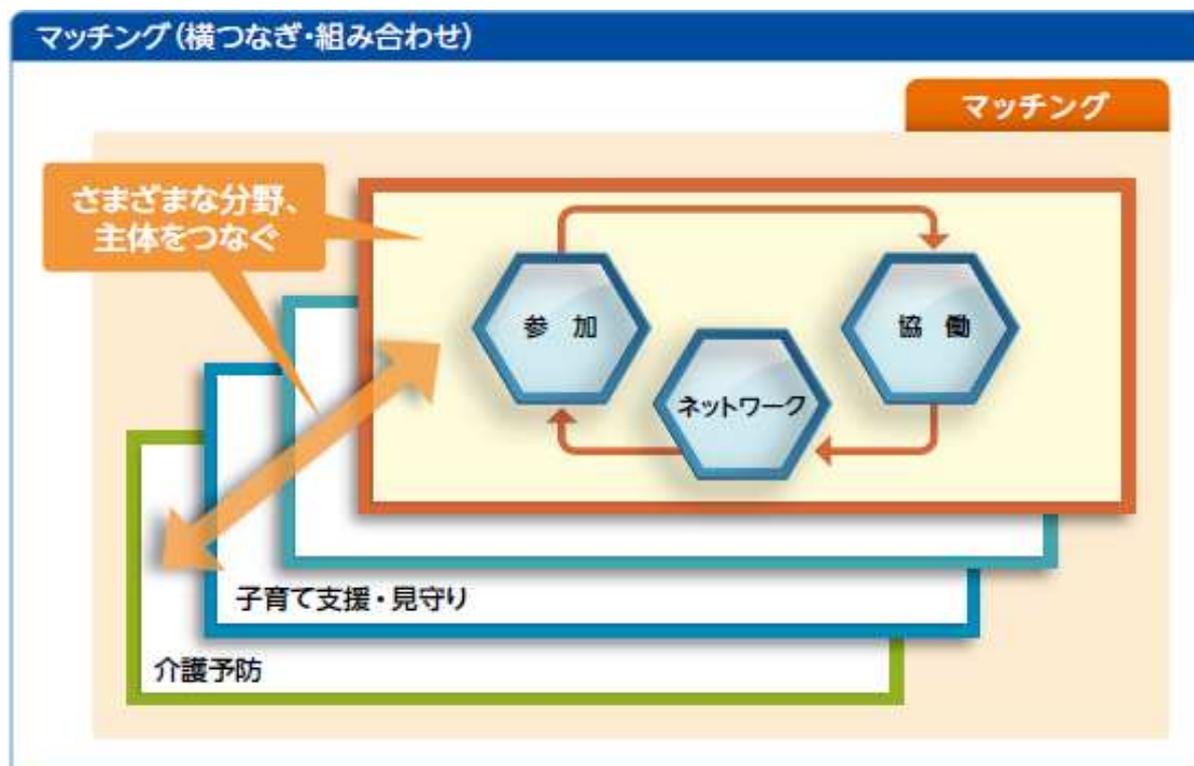
基本計画（平成 17 年度～25 年度）

基本的考え方のなかで、「協働の推進」を掲げ、区は行政の責任領域を見定めた上で、地域で活動を繰り広げる区民、事業者等とこれまで主に委ねられてきた公共の領域において新たな関係を発展させ、連携・協働の一層の充実を図り、区民生活に必要なサービスを総合的に実現するとし、施策を進めてきました。

2 「基本計画」におけるマッチングの取組み

- ・基本計画（平成 26 年度～平成 35 年度）では、視点の中でマッチングによる政策推進の考え方を掲げました。
（目的を共有し、縦割りを超え、さまざまな分野や主体を横つなぎ・組み合わせることで、課題解決の力を高めるよう、相互に協力して政策を進めることをマッチングと定義します。また、これまでの連携や区民参加・協働の取組みを、より一層加速・向上させ、マッチングにより、政策を推進します。）

- ・基本計画に掲げる重点政策ほか、分野別政策、その他の事業を対象として、庁内関係部が協力し、庁内連携を強めながら、マッチングにより、効率的で効果的な政策の形成や推進に努めます。



推進のイメージ

(1) 視点

「さまざまな分野を組み合わせているか」、「多様な主体の参加・協働や協力・連携ができないか」など

(例)福祉と都市整備、福祉と産業、文化と産業、教育と産業 / 区民と区、事業者と区民

(2) 庁内の連携体制

政策経営部、企画総務領域関係部、区民生活領域関係部、保健福祉領域関係部、都市整備領域関係部、教育領域関係部ほか、連携のもとで進めます。

(3)情報公開と区民参加

区が進めるマッチングの考え方や方法を、外部委員会から意見をいただき、検証するとともに、区民へ情報を提供し、意見を聴きながら検討を進めます。

(4)展開

組織の中で整理したノウハウをまとめ、他の施策展開にも適用するなど、庁内に広がります。また、区民や事業者へも協力を呼びかけ、マッチングにより、ともに地域課題の解決を進めます。

【マッチングの事例】 「地域の絆推進」

～「地域の絆推進事業」により地域での交流が広がり、コミュニティの活性化を進めた事例～

内容

平成 23 年度～25 年度の地域の絆推進事業で、町会・自治会や地域活動団体にまちづくりアドバイザー派遣や地域・地区で交流会を進め、地域のつながりを強めてきました。

さまざまな分野を横つなぎ <縦割りから横つなぎ>

強化された団体同士のつながりを活かして、「地区防災力の強化」、「高齢者見守り」、「子育て支援」などさまざまな分野を超えて、地区まちづくりの推進が期待されます。

さまざまな主体を横つなぎ <参加、協働、ネットワーク>

地域の絆推進事業では、地域交流会が定着し、それまで交流のなかった団体相互の交流が進み、ネットワークができました。一部では地区交流も開催されるなど、地区単位のネットワークも形成され、地域や地区での活動団体間をつないでいます。

重点政策における連携・参加協働の推進

(1)子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進

	教育	子育て支援	若者の応援
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育サービスの拡充と質の維持・向上、幼児教育の充実 ・ 在宅子育ての支援とひとり親支援等の支援 ・ 中高生の居場所、子どもの居場所の充実 ・ 若者の就労・自立の支援 ・ 世田谷 9 年教育の推進 ・ 複雑化・多様化する子どもたちの声を聞くしくみづくり ほか 		
区民参加・協働で ともに進める政策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校・家庭・地域の連携 ・ 地域ぐるみで子どもを育て、信頼される学校づくり ・ 地域での親と子どもの交流と機会、提供によるコミュニティづくり 		

(2)高齢者・障害者等の在宅生活を支え、孤立させないための地域包括ケアシステムと住まい

	相談支援体制	基盤整備（住まい含む）	支えあいの推進
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区における相談支援体制の確立 ・ 在宅生活を支える保健・医療・福祉サービスや、生活支援サービスの整備誘導 ・ 健康づくりと介護予防 ・ 地域での支えあい活動の支援 ・ 安心できる暮らしの基盤となる多様な住まいの確保 ほか 		
区民参加・協働で ともに進める政策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での支えあい活動、健康づくり活動への参加と広がり ・ 身近な地区での団体・事業者の連携 ・ 住まいの地域資源の活用、多様な住まい方の提案 		

(3)安全で災害に強いまちづくり

	地区防災力の向上	震災・豪雨対策	社会インフラの更新
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災活動の呼びかけと機会の提供 ・ 木造住宅密集地域の不燃化促進、建物の耐震化の促進 ・ 消防水利不足地区の解消 ・ 公園、緑地の計画的整備 ・ 道路ネットワークの計画的整備 ・ 社会インフラの更新 ほか 		
区民参加・協働で ともに進める政策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区全体での防災情報の共有と防災意識の向上 ・ 避難所運営など、地区防災訓練への参加 ・ 災害時要援護者支援の取組み 		

(4)自然の恵みを活かして小さなエネルギーで暮らす豊かなまちの実現

	環境	みどり	産業
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの活用促進 ・自然エネルギーの地産地消 ・省エネルギーと環境負荷の少ないライフスタイルの呼びかけ ・民有樹林地の保全と地域の緑化の推進 ・農地保全 <p style="text-align: right;">ほか</p>		
区民参加・協働で ともに進める政策	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷の小さいライフスタイルの実践 ・みどりの保全と広がり ・地域資源の活用や連携、新たな産業の芽の創出 		

(5)世田谷の文化の創造と知のネットワークづくり

	文化の創造	知のネットワーク育成支援	スポーツの推進
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・区内外への文化の魅力の発信 ・新たな図書館機能の創造 ・区内大学とのネットワーク ・区民文化活動の振興 ・生涯スポーツの推進 <p style="text-align: right;">ほか</p>		
区民参加・協働で ともに進める政策	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化活動への参加 ・新たな図書館機能づくりのための参加協力 ・大学や民間の博物館、図書館等とのネットワーク 		

(6)豊かなコミュニティ活動の発展と住民自治の推進

	参加の支援	団体への支援	協働基盤
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・防災、見守り、福祉、健康づくり、スポーツなど、さまざまな地域活動へ参加する機会の提供 ・地域活動団体の活発化のための支援、地域活動人材の確保育成への協力 ・地区まちづくりへの支援と協力 <p style="text-align: right;">ほか</p>		
区民参加・協働で ともに進める政策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・家庭・地域の連携 ・地域ぐるみで子どもを育て、信頼される学校づくり ・地区での防災と見守り活動 		

「世田谷区新実施計画」におけるマッチングの展開

(1)計画目標の見通し

計画当初 (H26.4.1)				
平成25年度末見込み	平成26年度末見込み	平成27年度末見込み	平成28年度末見込み	平成29年度末目標
1)庁内組織の立ち上げに向けた検討 2)マッチングの考え方や情報公開・区民参加のあり方検討	1)(仮称)マッチング推進会議の設置、領域連携開始 2)政策検証のための委員会設置に向けた検討	1)(仮称)マッチング推進会議による庁内連携 2)政策検証のための委員会設置、運営 基本計画の推進と評価の実施	1) —————> 2)政策検証のための委員会運営 —————>	1)(仮称)マッチング推進会議による庁内連携の実現 2)政策検証を行うための委員会 基本計画の推進と評価の実施 次期新実施計画の策定

(2)年次別計画の内容

年次別計画事業項目名	事業目的	事業内容・取組み体制・取組み手法	該当年次			
			26年度	27年度	28年度	29年度
(仮称)マッチング推進会議の設置、領域連携	庁内におけるマッチングの手法を取り入れた事業展開の推進とマッチング指針の策定に取り組む。	政策経営部を中心に、各領域計画担当課、地域行政、政策研究、都市デザインの各課との会議体を設置し、マッチング推進のための検討を行う。既存事業の見直し、新たな事業を見据えた課題抽出など、予算化も視野に入れた幅広い検討を行い、継続性のある取組みとする。				
政策検証のための委員会設置に向けた検討	外部委員を登用し、基本計画等の進捗について、その評価・検証を実施する。	基本計画における重点政策を中心に事業の進行管理について、外部委員による政策検証のための委員会を設置し、評価や検証をともに進める。またその成果は、29年度に策定予定の次期新実施計画にも反映させていく。	設置 検討	設置 運営		

2 世田谷区の現状等 < 世田谷区基本計画より >

1 現状と課題等

- (1)区は、これまで区民、団体、事業者と情報を共有・連携しながら、多様なまちづくりを進めてきました。しかし、今後、地域課題が増大し、複雑化・多様化するなかで、より広範で多様な地域への参加を求め、機会を整え、呼びかけていく必要があります。また、身近な問題から全区的な課題など、課題に応じたさまざまな参加の方法や工夫が必要です。
- (2)参加を広げるとともに、区民・事業者・区がともに、具体的な解決に向けて、より積極的に相互に協力し取り組む、協働によるまちづくりを進める必要があります。また、まちづくりを進めるには、その活動にかかる人材や資金などの地域社会全体で支えていくしくみを検討する必要があります。
- (3)区内の地域活動団体、NPOや事業者、大学等の力をともに高めていくほか、近隣自治体との関係の強化等が求められます。

2 これまでの連携・協働の取組み

(1)世田谷らしい地域の絆が支える区民自治・協働

平成 22 年 4 月に策定した「世田谷区地域活性化に向けた指針」では、区民自治と協働を基調とした地域の課題解決に向けて、区民・活動団体・行政が地域に関わり、各主体間で共有し、前基本計画（平成 17 年度～25 年度）に掲げる「区民が創るまち」の実現を目指し、取り組んできました。区では、「地域の絆推進事業」をはじめ、NPO等の活動支援などを進めています。

(2)現在の連携や協力による事業推進の現状

平成 26 年 5 月に、庁内各部が取り組む政策や事業を対象に実施した「連携事業等に関する調査」によると、以下のような連携や協力が行われております。

【調査からみた主な取組み事例から】

< 総合支所 >

・健康せたがやプランの推進

健康教室等を通じた健康サポーターの発掘、協働によるリーフレット作成

・地域包括ケアと地域福祉資源への取組み

身近な地区における相談体制の構築に向けた準備

- ・医療救護所の開設
災害時における各小中学校での地域住民、近隣医師との役割分担
- ・たまがわ花火大会
花火大会を通じ、ふるさと意識の醸成と区民相互の絆を深める
- ・水害時避難行動マップの作成
豪雨対策行動計画のモデル地区(鎌田)における地元の方々の意見を取り入れる
- ・地域キャラクター活用による地域活性化事業
烏山地域キャラクターを活用した地元と連携した事業を展開

< 企画総務領域 >

- ・財務会計制度の運用
情報提供の早期化・迅速化など、区民へわかりやすく公表するしくみづくり
- ・オープンデータ推進の取組み
多様な主体が利活用しやすい情報公開のあり方を研究し、行政サービスを拡充
- ・共催研修の実施
人材育成の観点から、全庁職員に対し十分な研修への理解を促進させる
- ・防災塾の実施
地区防災計画の策定を視野に入れた 27 箇所での事業実施を展開

< 区民生活領域 >

- ・提案型協働事業
NPO 等の団体から事業等の提案を受け、団体と所管部が協働し事業を展開
- ・生涯現役ネットワークの支援
地域活動や相談会の実施、ネットワーク補助事業を実施
- ・せたがや産業 PR 推進
区内での起業や事業展開を促進し、事業活動等を PR
- ・ごみ減量プロジェクト事業
区内大学や事業者、区民団体等と連携した普及啓発事業の検討・実施

< 保健福祉領域 >

- ・福祉人材の確保、育成
区内大学、区民等が参加するせたがや福社区民学会を通じ、活動や研究を発表
- ・高齢者見守りネットワーク
地区の高齢者に関わる課題等を情報共有し、地区内で啓発活動を実施
- ・若者支援の取組み
関連施策との効果的な連携強化を図り、若者をネットワークでつなぐ

< 都市整備領域 >

- ・小田急線上部デザインコンセプト作成
駅周辺まちづくりを踏まえた整備を図ることから、関係機関との連携を推進

- ・豪徳寺駅界限街づくり
地区のニーズを踏まえた、保健医療福祉の街づくりのための指針を策定
- ・空き家等活用検討
空き家、空き室を地域貢献する場として活用するための協議を実施

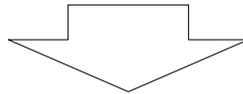
<教育領域>

- ・世田谷教育推進会議
シンポジウムやワークショップを通じ、学校、家庭、地域の課題を考える
- ・体力向上、健康推進事業
区立学校の児童、生徒の体力向上に向けた取組みを提案
- ・学校協議会
地域の協力を得て、児童生徒の健全育成等に取り組む

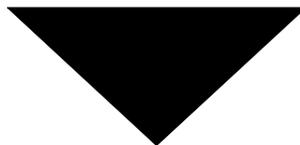
【併せて事業を進めるにあたり、以下のような課題が挙げられました。】

- ・関係機関による定例的な状況確認と意見交換の場では
...参加団体の対象とするケース年齢が異なるため、対応策などの具体的な内容までの意見交換は難しい。...関係機関との調整作業。
- ・地区における相談体制の準備では
...相談体制の準備、異なる組織の一体運営のあり方、地区への地域のバックアップ体制、事業者や関係機関調整方法。
- ・地域団体と進めるイベントでは
...安全確保に優先しつつ、多くの区民の参加を得る魅力的なプログラムの開発と実行。
- ・災害時を想定した取組みでは
...災害時に地域住民に確実に避難情報を伝える手段と迅速に行動する手段とその訓練、地元町会との連携強化、案内板設置による周知。
- ・地元キャラクターによる地域活性化の現場では
...定着化が進むなかでの、円滑に派遣するためのマニュアル化。
- ・庁内横断的に進める会計制度の運用では
...情報提供の迅速化とわかりやすさ、行政評価や財産台帳など関連事業とどう連動させ有効に活用するか。職員のスキルを高める研修。
- ・提案型協働事業の現場では
...提案内容が区事業と適合しない場合の対応、提案の主体側の体制の脆弱性、協働事業としての理解が充分でない。
- ・産業のPR、ソーシャルビジネス、大学との連携事業では
...シティセールスのあり方、民間活力の導入方法や産学連携のあり方、異なる主体のマッチングの場と機会の提供のあり方。
- ・福祉人材の育成の事業では
...労働力人口の減少に伴う介護人材の不足、人材育成のための研修の充実、情報発信機能の拡充

- ・見守りネットワークの現場では
 - …庁内所管の連携と意識の統一、地域・地区の実情に即したネットワーク
- ・若者支援の施設準備では
 - …精神保健・生活困難・教育相談・生涯施策などの様々なサービスに包括される若者をどうネットワークでつなぎ・連携するか。
- ・ハードの街づくりデザインコンセプト作成や界限街づくりでは
 - …都や事業者との調整、周辺区民や駅利用者の意向の把握、学校や警察消防などの関係機関との調整
- ・教育推進の現場では
 - …関係者間での課題抽出から改善へのプロセスの確立、区民参加と意見聴取の効果的で効率的な方法、成果を広く区民へ伝え実践に活かす。
- ・体力向上や健康推進、学校協議会では
 - …対象目標の定義の明確化、検討された提案の施策化、モデル事業の分析手法、少ない予算のなかでの効果的な事業執行、地域防災における学校・総合支所・災害対策課の役割整理。



さまざまな連携の形がある中で、**課題を整理すると**
 場や機会の確保
 立場が異なる庁内所管の事業内容や外部の機関・団体との間で、連携する場や機会をどう確保し、有効につなげるか。
 目的や実現の方法の共有
 目標や実現の方法をどのように共有するか。
 組織基盤や人材確保
 区民や団体との協力では、団体組織サイドの基盤強化や人材の確保をどう支援するか。
 区民参加とそのプロセス
 区民参加のあり方、多様な意見をまとめる透明性とそのプロセスと手法を考えるか。
 協働の前提としてのルール
 協働における対等の関係づくりについては、区と参加団体の各々のより明確な役割分担と責任の範囲をルール化できないか。



今後の連携や協働を進めるにあたっては、上記の課題解決のための工夫と意識改革で、粘り強い取組みが大切です。

連携や協働から、何故、マッチングによる政策推進か

【区を取り巻く大きな変化】

- ・昔から住んでいる人と新しく引越してきた人が交じり合い、多様な人が共存する地域社会が形成されています。一方、さまざまな参加や公益的な区民活動や民間事業者なども以前からは、飛躍的に増えてきました。
- ・こうした中だからこそ、この世田谷で、区が本当にやるべき政策とは？ 「行政分野を飛び超えたり...」「さまざまな主体が混在する...」などの諸課題に取り組んでいくには、これまでの政策手法や組み合わせだけでなく、新しい政策モデルを区民・事業者等とともに創りあげられないか。

【民間企業では】 三菱ケミカルホールディングス社長

『どこにでも何でも横串を刺し、大きな課題解決を求め、横断的に知恵と情報を出し合い共に考える。現代はあらゆるものがどんどんつながっている。異質なものを融合させ大きな価値を生み出せ』(日本経済新聞 4/14 要約)

【自治体では】 新しい政策を生み出す努力

横浜市...多様化・複雑化する市民ニーズに、行政と民間が目標を共有し、知識やノウハウを活用する「共創推進指針」

岩手県...県と企業が広く協力したマッチングシステム
さまざまな、取組み、模索が、始まっている。

「世田谷版マッチング」による政策の推進で、政策を創造する

【参考：他自治体の事例紹介】

1 福岡市の事例

NPO からの企画提案を募集し、審査委員会で採択された事業について、翌年度に NPO と市が実行委員会を組織し、市が総事業費の 5 分の 4 以内を負担して、共働で事業に取り組む。

実施決定事業は、経費負担割合、事務の役割分担等を明確にするため、事業実施前に提案団体と市で協定書を締結。

事業実施の中間期、1 年間の事業終了後に公開の場で事業成果の報告会実施。審査委員会の 1 年間の事業評価結果を市ホームページで公表。

2 兵庫県豊岡市の事例

平成 23 年 3 月、「豊岡市歩いて暮らすまちづくり構想」を策定。ウォーキングロードや公共交通の利用促進などのまちづくり政策と、健康政策、また、ウォーキングを兼ねたごみ拾いなど、歩いて暮らすことを中心に関連政策を取りまとめた計画を策定。

同構想は基本構想・基本計画を受けながらも、各種計画に健康の視点を導入するための指針として位置づけられている。

また、24 年 3 月には、「豊岡市歩いて暮らすまちづくり条例」を策定。この条例では、基本理念を位置づけているほか、構想の策定や、審議会の設置などについて定めている。

3 岩手県の実例

「マッチングシステム」を活用し、県と企業との連携を目指す事業情報を予め、メニューとして一覧表示し、希望企業が県に対し連携事業を申し込むしくみ。

・期待される取組み

民間ノウハウ活用、認証制度拡大、民間同士のマッチング促進、新たな公共サービスの提供等

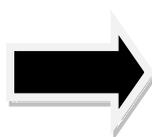
マッチングシステム

窓口の一元化、情報の集約化、連携に向けた調整を進め、県民サービスの向上、地域の活性化に寄与する。

4 神奈川県横浜市の事例

多様化・複雑化する市民ニーズへの対応が難しくなっている状況がある。そこで、行政と民間の双方向による対話を通じて、目標を共有し、知識やノウハウを最大限活用する、横浜を舞台とする「新たな価値を共に創っていく」という考えのもと、「共創推進の指針」を策定した。

- ・ 質の高い公共サービスの提供
- ・ 新たなビジネスチャンスの創出
- ・ 横浜らしい地域活性化の推進



- ・ 市民、企業、行政による新しい公共づくり（共創）

3 マッチングの基本的方向性

1 方針

マッチングを推進するにあたり、意義や要素ほかについて以下に整理しました。

(1) マッチングの意義

基本計画に掲げる「目的を共有し、縦割りを超え、さまざまな分野や主体を横つなぎに組み合わせることで、課題解決の力を高めるよう、相互に協力して政策を進めること」を踏まえて、自治権拡充や住民自治の進展を見据え、限られた財源で事業を融合させることで、基本計画における重点政策ほかを、より効果的効率的に進めます。

(2) マッチングの要素

マッチングによる横断的政策を進めるために必要となる、4つの要素を以下の項目とし、推進します。

目的の共有

政策を推進するための複数の取組みにおいて、これまでの制度や仕組みにこだわらず、問題を深く広く捉え、課題の解決に向け、相互に求めるべき目的を共有します。

各々の組織にこだわらない広い視点

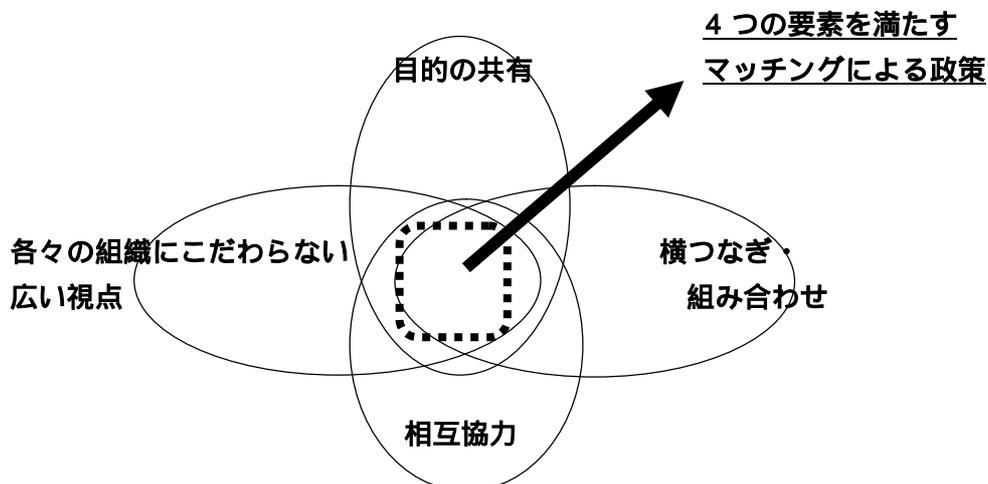
目的実現のためには、限られた組織や事業の範囲だけで課題解決にあたらず、組織横断的に、総合的な広い視点で取組みを行う必要があります。

横つなぎ・組み合わせ

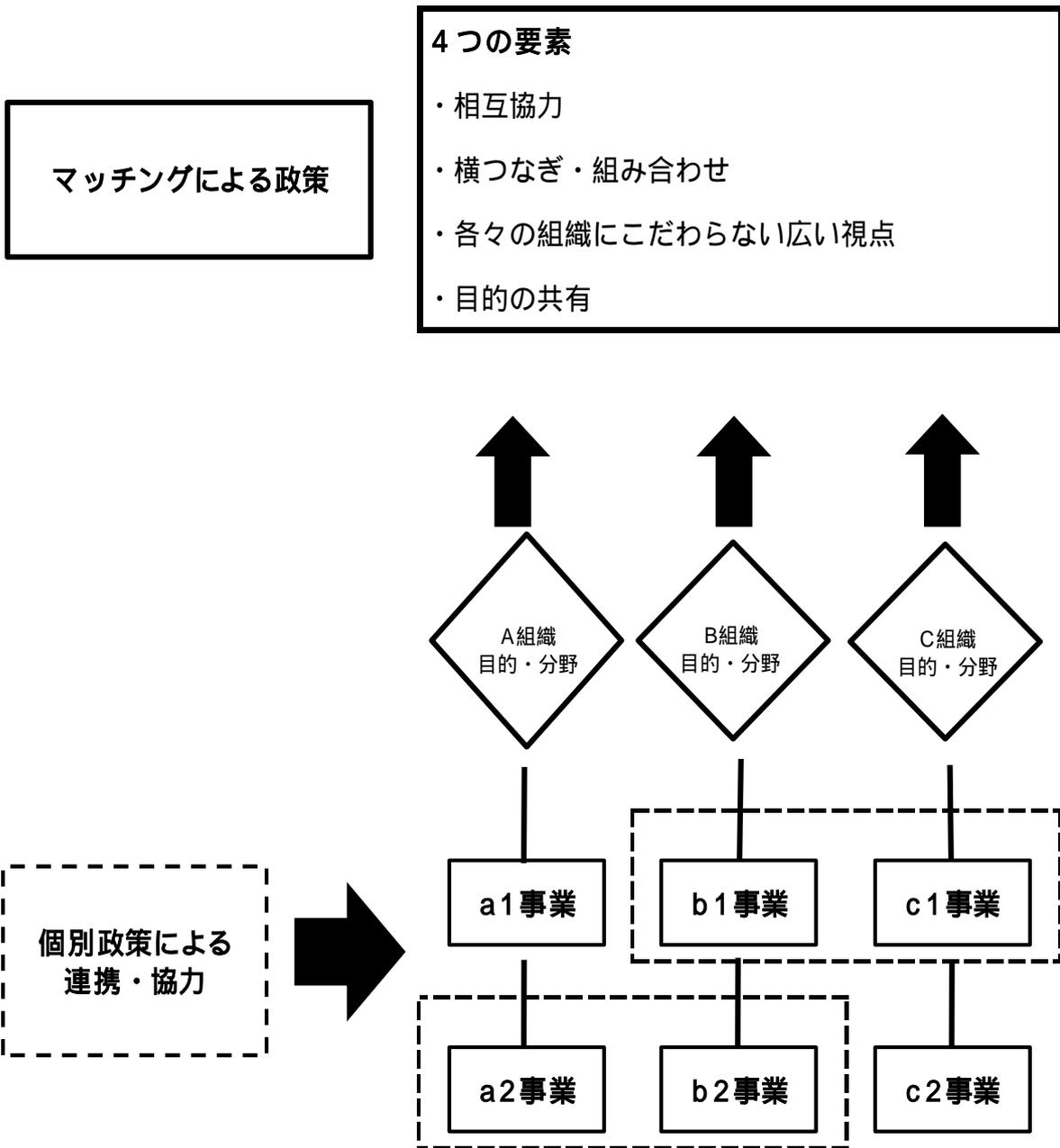
具体的な取組みにおいて、さまざまな行政分野の施策や、多様な区民・事業者などの参加・協働の活動を横つなぎ・組み合わせ、融合させることにより、長期的、多角的な視野を持ち、深く・広く考え、その力を最大限発揮することで政策を実現します。

相互協力

区民・事業者等・区が相互に協力して、責任と役割を分かち合い、新しい行政サービスの創造や政策の実現に取り組みます。



(マatchingによる横断的な政策推進のイメージ)



2 マッチングにより、めざしていく3つの挑戦

方針に基づいて、4要素を満たす取組みを進めることで、単独では得られなかった気付きや発見をもたらし、新たな政策を生み出し、柔軟で専門性も併せ持つ組織の強化や区民事業との強いネットワークの形成、職員一人ひとりの意識の改革や向上をめざします。

(1) 新たな政策を創造する

横断的な政策テーマの効果的な推進

基本計画の重点政策などの横断的な政策を推進するため、身近なわかりやすい政策目標を掲げ、その達成のために事業をつなぎ、融合により、一層の政策効果を高めます。

区と区民で推進する体制

- ・全庁の推進体制のもとで、引き続き 広く議論を通じて、マッチングを推進します。
- ・また、庁内はもとより、区民参加や協働を図るための、区の支援機能や事業への区民の理解を深め、区民への情報提供や多様な呼びかけを図ります。加えて、対等の関係づくりにおける、より明確な責任やルールのあり方の検討や政策情報のオープン化を進めます。

(2) 組織のあり方を変える

機能的で迅速な組織と窓口の充実

- ・区民目線、区民ニーズに対応し、行政の縦割りの弊害を排し、専門性を活かし横断的課題を収斂して、政策を生み出し・推進など、マッチングによる政策を支える機動的で迅速に動く組織のあり方、組織の運営を進めます。
- ・利用者のための窓口の充実と総合化を進めます。共通番号を活用した効率化とサービス向上、地区での災害対策や見守りなど、区やさまざまな活動団体が関わる事業において、区は地区での強化に取り組みます。

民間活用等の効率的な公共サービスの運営

- ・効率的な公金運用、区立施設の用途転換など、より広く民間や区民とのマッチングを視野に入れた新たな行政サービスの拡充など、既存の形式に捉われない民間活用のしくみづくりを進めます。

(3) 職員意識を変革する

) 人材育成と区民への呼びかけ

- ・ マッチングの取組みを進めたり、その取組み事例などを広く区内で共有することを通じて、一人ひとりの職員意識を高め、仕事への関わり方や協働の仕方など、より効果的な政策づくりと推進を支えるための意識や感度の向上を図り、人材育成につなげます。
- ・ また、理念、考え方、基本姿勢、規範として、実践を通じてまとめ、重点政策から、その他の事業へと広げます。さらには区内だけではなく、区民・事業者など外にも呼びかけ、少しずつ広げていきます。

4 今後の展開

1 マッチングの実現に向けて

- ・今の変化の激しい時代、多種多様化する区民ニーズ、めまぐるしく変わる区政の課題に常に、最善の施策を組み立て続ける必要があることから、行政は、直面する政策課題に応じてさまざまな行政分野を組み合わせ、また、区民やさまざまな団体や機関などの推進主体に「参加」を呼びかけ、「協働」による関係のもとで、ともに課題の解決につなげて政策を進める必要があります。
- ・そこで、こうした取組みとともに、さらに発展させた「マッチング」の考え方を、わかりやすく整理し、行動に結びつけるために検討を取り組みました。
今後は、さまざまな実践を通じて、課題解決に向けたマッチングの取組みを加速させ、区民・事業者等・区による、新しい関係を築くきっかけとなることを期待します。
- ・本書では、「マッチングによる政策の推進に向けた検討」と題し、その検討状況を取りまとめています。
今後、庁内議論はもとより、議会での議論も踏まえ、モデルとしての取組みや外部委員会での検証などを進め、「マッチングレポート」を取りまとめ・更新し、庁内外への発信を絶えず繰り返すことで、マッチングを運動として拡充していきます。

2 モデルの選定について

マッチング対象となる政策をモデルとして示し、マッチング推進会議と所管部が協力して取り組みます。検討（試行）の結果は、「マッチングレポート」に盛り込みます。

（モデルの選定）

マッチングの4つの要素により推進する政策等。

（スケジュール）

26年7月	「マッチングによる政策の推進に向けた検討」のなかで、候補予定事業を掲載
7月～8月	区長と部長との意見交換会の実施 庁内ヒアリングの実施
9月～11月	所管部と調整のうえ、モデル選定を進める 検討（内容によっては試行を含む）
12月	モデルの成果をマッチングレポートに掲載

連携事業等調査結果を踏まえ、マッチング推進会議において、選定作業を行い、以下の取組みをモデル候補とし検討を進めます。

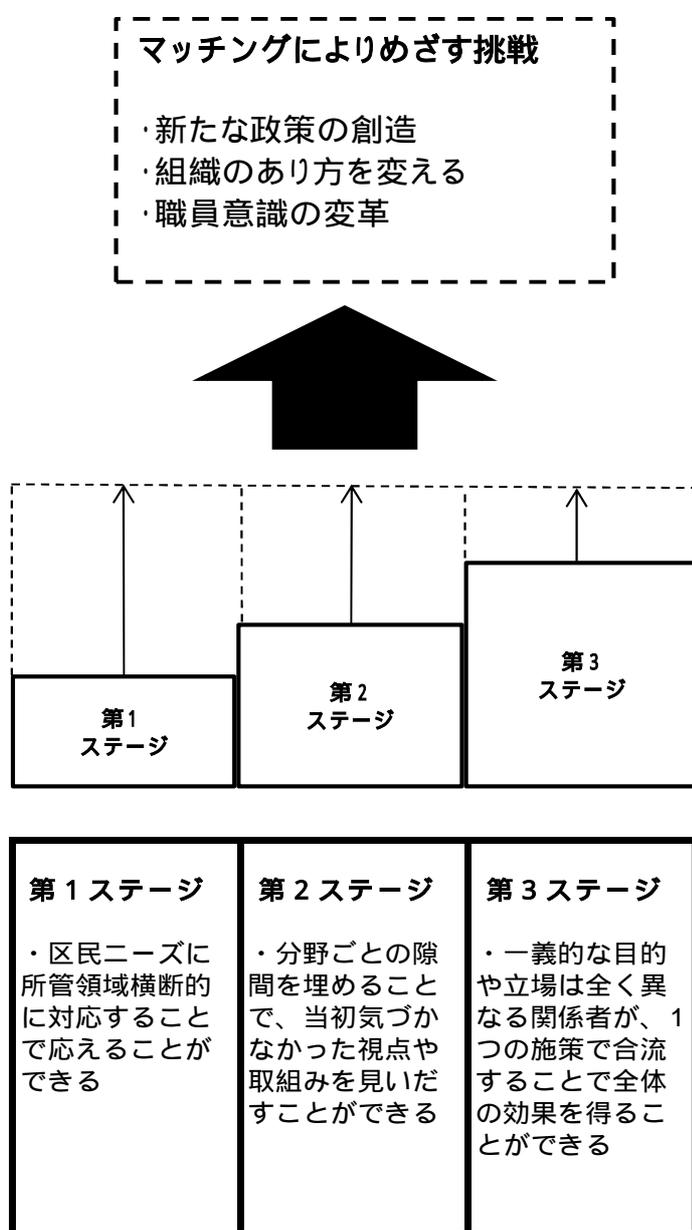
候補とする政策テーマ

今回候補とした政策テーマは、連携調査などで挙げた事業のうち、14ページで掲げる「4つの要素」及び、以下に掲げる「3つのステージ」に照らし選定、取り組みます。

(マッチング政策の推進における3つのステージ)

財源や人材が限られているなかで、いかに効果的・効率的に取り組むかがポイントになります。区長との意見交換会の実施や庁内での議論を重ね、共有化を図りながら段階的に取り組みます。さらに、よりマッチングをわかりやすくするために、今回3つのステージを掲げ、モデルを選定し、それぞれのマッチングによる効果を見据え進めていきます。

(3つのステージで期待できるマッチングの効果)



モデル候補一覧(下記の以外の取組みについても、検討状況に応じて追加、検討する)

内容等	ステージ
1) 地域包括ケアシステムの推進	1 . 2
2) 防災まちづくりの推進	1 . 2
3) NPO との協働など市民活動の支援	2
4) 若者支援の取組み	2
5) 教育推進会議を中心とした取組み	2 . 3
6) 空き家・空き室の地域貢献活用	3

3 マッチングの進捗管理について (PDCA による進行)

本格実施後のマッチングの展開や、その進捗の管理についても、以下の項目を検討します。

マッチングの取組み評価と改善

- ・マッチングの取組みについては、その取組みが、目的に照らしてどのくらいの進捗にあるかの評価
- ・所管部とマッチング推進会議による、取組みの自己評価
 - 「4つの要素」による評価も加えます。
 - 目的の共有
 - 各々の組織にこだわらない広い視点
 - 横つなぎ・組み合わせ
 - 相互協力

外部評価委員会による評価と改善

- ・マッチング事業の推進状況を外部委員会へ報告し、外部評価を受け、改善点など、さらなる向上のしくみ
- ・新実施計画の進捗状況の中での公表

発行日	平成26年9月
発行	世田谷区政策経営部庁内連携担当課
	電話 5432 - 2040
	FAX 5432 - 3047
